



各 位

NPO放送批評懇談会（担当：中島／福島）

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

＜詳報＞第54回ギャラクシー賞贈賞式取材ご案内

テレビ、ラジオの番組、関係者に贈る賞として54年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」。

本日、「志賀信夫賞」「マイベストTV賞」「フロンティア賞」を発表いたします。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の各部門ノミネート作品の詳報も発表します。

贈賞式は6月1日に開催いたします。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門の大賞、優秀賞、選奨が、贈賞式で発表されるほか、志賀信夫賞、テレビ部門個人賞・特別賞・フロンティア賞、ラジオ部門DJパーソナリティ賞、マイベストTV賞の表彰も行われます。

贈賞式をご取材いただき、各部門の受賞作品を報道いただくようお願い申し上げます。

＜贈賞式出席者＞（予定）

■テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門 入賞のみなさん

■志賀信夫賞 西村泰重 ジュピターテレコム初代社長

■フロンティア賞 「火花」 YDクリエイション

■特別賞 「世界の果てまでイッテQ！」 日本テレビ放送網

■個人賞 満島ひかり 「トットてれび」「江戸川乱歩短編集Ⅱ 妖しい愛の物語」「カルテット」の演技に対して

■DJパーソナリティ賞 星野 源 「星野源のオールナイトニッポン」（ニッポン放送）パーソナリティとして

■マイベストTV賞 「逃げるは恥だが役に立つ」 TBSテレビ

*ほか、受賞番組ゲストの出席を調整中

＜贈賞式日程＞

2017年6月1日（木曜日）贈賞式 15:00～17:15

志賀信夫賞

西村泰重

ジュビターテレコム初代社長

マイベストTV賞 第11回グランプリ

火曜ドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」

TBSテレビ

テレビ部門

クレイジージャーニー 「リヤカーマン」

TBSテレビ

黒声の記憶

鹿児島テレビ放送

追いつめられた“真実”～息子の焼身自殺と両親の9年～

毎日放送

プレミアムドラマ「奇跡の人」

日本放送協会 日テレアクセスオン

ゆとりですがなにか

日本テレビ放送網 日テレアクセスオン

NHKスペシャル「ある文民警察官の死～カンボジアPKO 23年目の告白～」

日本放送協会

ザ・スクープスペシャル「緑十字機 決死の飛行～誰も知らない“空白の7日間”～」

テレビ朝日 静岡朝日テレビ

NHKスペシャル 廃炉への道2016「調査報告 膨らむコスト」

日本放送協会

ブレイブ 勇敢なる者「えん罪弁護士」

日本放送協会 NHKエデュケーショナル

Born Again～画家 正子・R・サマーズの人生～

琉球放送

火曜ドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」

TBSテレビ

大ちゃんと為さん～あるまちの風景～

三重テレビ放送

きずあと 101歳 戦争と平和のレクイエム

東海テレビ放送

火曜ドラマ「カルテット」

TBSテレビ

特別賞

「世界の果てまでイッテQ！」

日本テレビ放送網

個人賞

満島ひかり

土曜ドラマ「トットてれび」（NHK）シリーズ・江戸川乱歩短編集II 妖しい愛の物語（NHK）火曜ドラマ「カルテット」（TBSテレビ）の演技

フロンティア賞

「火花」

YDクリエイション

報道活動部門

イスラム国（IS）の実態とヤズディ教徒を中心とした住民迫害についての長年の取材報道

アジアプレス・インターナショナル

富山市議会の政務活動費不正をめぐる調査報道

チューリップテレビ

ながさき原爆記録全集～戦略爆撃調査団編～

長崎ケーブルメディア

ハートネットTV・熊本地震に関する一連の報道活動

日本放送協会

スーパーJチャンネルみやぎ「5年前のきょう」「5年前の今」（震災5年を受けたシリーズ企画）

東日本放送

被災町民の声を伝え続けた臨時災害放送局6年間の自主制作

山元臨時災害放送局「りんごラジオ」

ラジオ部門

KBC長浜横丁 居酒屋清子

九州朝日放送

広島原爆の日 ラジオ特集

「あの日、母は少女だった～被爆の記憶をたどる母と息子の対話～」
日本放送協会

ライムスター宇多丸のウィークエンド・シャッフル

TBSラジオ

峠の先の小学校

CBCラジオ

語り部をやめたい～94歳の夏

毎日放送

ミュージックドキュメント 井上陽水×ロバートキャンベル

「言の葉の海に漕ぎ出して」

エフエム東京

荻上チキ・Session-22

TBSラジオ

ラジオドラマ

「5拍子の福音」

毎日放送

DJパーソナリティ賞

星野 源

「星野源のオールナイトニッポン」（ニッポン放送）パーソナリティとして

CM部門

アマゾンジャパン Amazonプライム

「ライオン篇」

アマゾンジャパン 博報堂 AOI Pro.

大塚製薬 カロリーメイト

「Mate篇」

大塚製薬 博報堂 catch AOI Pro.

大塚製薬 ポカリスエット シリーズ

「エール篇」「サンクス篇」「ポカリガチダンスありがとう篇」

大塚製薬 電通 ギークビクチュアズ

KDDI au

「秋のトビラ・三太郎の出会い篇」

KDDI 電通 AOI Pro.

湖池屋 KOIKEYA PRIDE POTATO

「100% SONG篇」

湖池屋 電通アドギア 電通 電通クリエイティブX

サントリーホールディングス BOSS シリーズ 宇宙人ジョーンズ

「昭和篇」「プレミアム熊本篇」

サントリーホールディングス シンガタ ワンスカイ 電通 ギークビクチュアズ

静岡新聞 静岡放送 企業

「超DS 静岡兄弟篇」

静岡新聞社 静岡放送 電通 スプーン

大日本除虫菊 タンスにゴンゴン

「知りと一なかった」

大日本除虫菊 電通関西支社 春企画東京

テレビ埼玉 私CM シリーズ

「中島千裕篇」「長島剛士篇」

テレビ埼玉 電通 ビクト

東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット

「堀川、ヤバくない？」

東海テレビ放送

日本コカ・コーラ ジョージア エメラルドマウンテンブレンド

「おつかれ、俺たち。篇」

日本コカ・コーラ 電通 ティー・ワイ・オー モンスター事業部

別府市

「別府温泉の男達CMシリーズ」

別府市 電通九州 ランニング U2

UQコミュニケーションズ UQ mobile/UQ WiMAX シリーズ

「家族設定、誕生篇」「パパがもらってきた子犬篇」

「不思議な隣人篇」「長女のひとり暮らし篇 [沖縄限定 ver.]」

UQコミュニケーションズ 電通 AOI Pro.

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨9本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、6月1日（木）開催『第54回ギャラクシー賞贈賞式』で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社（者）名五十音順に記載。 詳しい結果は6月6日（火）発売の「GALAC」2017年7月号に記載いたしますので、ご覧ください。



放送批評懇談会 第 8 回志賀信夫賞

西村泰重

ジュピターテレコム (J:COM) 初代社長

志賀信夫賞選考委員会

委員長 音 好宏

選考委員 橋本 隆 藤田真文 藤久ミネ 川喜田 尚 丹羽美之

「志賀信夫賞」は、志賀信夫前理事長の長年にわたる放送批評活動の功績を記念して創設されました。番組制作に留まらず、放送局やプロダクションの経営、業界の新たな仕組み作りなどに、幅広い業績を対象に、広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。

当選考委員会が、慎重かつ多角的な討議を重ねた結果、第 8 回志賀信夫賞の受賞者に、株式会社ジュピターテレコム (J:COM) 初代社長の西村泰重氏を選出いたしました。

<選評>

今でこそ、多チャンネルの放送サービスからインターネット、電話、電力まで、多様な生活基盤ビジネスを提供する複合メディア事業に成長したケーブルテレビであるが、その始まりは地上テレビ放送の難視聴地域での補完装置としてであった。そのケーブルテレビ事業を今のような姿に発展させるきっかけとなったのは、何といても 1995 年 1 月の J:COM の誕生に象徴される MSO (マルチプル・システム・オペレーター) の登場であろう。西村泰重さんは、その J:COM の初代社長として、日本のケーブルテレビの産業化を牽引した、ケーブルテレビ・ビジネスの生みの親的存在と言える。

西村さんは、1959 年住友商事に入社し、鉄鋼部門などを担当。米国駐在時にケーブルテレビと出会い、その将来性を強く認識したことで、住友商事のケーブルテレビ事業参入を描くことになるわけだが、その時、住友商事がパートナーとしたのが米国の大手 MSO であった TCI である。TCI の総帥であるジョン・マローン博士と西村さんとの信頼関係があったからこそ、J:COM は産声を上げることになった。その後、日本最大の MSO に成長すると共に、自他共に認める日本のケーブルテレビ業界のリーダー的存在となっている。

他方で西村さんは、多チャンネル放送のコンテンツ力の向上にも尽力し、初代の衛星放送協会会長として、有料衛星放送事業者の結集を図ると共に、そのビジネスの近代化とサービスの拡充に務めた。

西村さんのケーブルテレビ、有料衛星放送といった日本の多チャンネル放送ビジネスの確立と、日本の放送文化の多様性の促進に寄与したその業績を讃え、ここに謹んで志賀信夫賞を贈ります。



<西村泰重氏プロフィール>

にしむら・やすしげ 1935年大阪市生まれ。東京大学法学部卒。59年住友商事に入社、大阪の鉄鋼部門に配属される。80年代初頭、米国赴任中にケーブルテレビ（CATV）と出会う。85年、住友商事と講談社、アスクの3社の出資によりソフト会社のアスミックを設立、代表取締役役に就任。95年、J:COM設立、初代社長に就任。98年から2004年、衛星放送協会会長。98年から2010年、TCIの在日顧問。著書に『J:COM創業記～商社マン、ケーブルテレビを拓く～』（2014年、角川学芸出版）がある。

「志賀信夫賞」について

■会の設立から発展に貢献のあった日本の放送批評のパイオニア、志賀信夫（1929-2012）の長年にわたる放送界への功績を記念して、2009年度に設立した。

■本賞は、これまでのギャラクシー賞が受賞対象とする番組制作という枠にとどまらず、広く放送の発展に貢献する大きな業績を成し遂げた個人を表彰するものである。

したがって番組制作だけでなく、放送局やプロダクションの経営、番組制作の支援や放送周辺分野、放送を中心とするメディアに関わる研究や批評活動など、幅広い分野で功績のあった方々を顕彰し、放送の更なる発展に役立てる意図を持つ。

志賀信夫 しが・のぶお / 1929（昭和4）～2012（平成24）。放送評論家。福島県生まれ。53年早稲田大学大学院文学研究科修了。57年同大学講師。60年放送評論家として独立。63年放送批評懇談会の設立に参加、理事、78年同理事長。79年共立女子大学講師。81年メディアワークショップ代表理事。85年ビデオ映像文化振興財団理事。90年多摩大学講師。NAB（全米放送事業者協会）東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK演出審議委員等を務める。『デジタル時代のパイオニア』（源流社）、『BS/CS衛星放送新時代』（電波新聞社）、『映像の先駆者125人の肖像』（NHK出版）など著書多数。自薦の優れた番組の評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした『年間テレビベスト作品』を30年にわたり出版。2003年には、テレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。

■志賀信夫賞過去の受賞者 / 肩書は当時

- 第1回 澤田隆治さん（日本映像事業協会会長）
- 第2回 後藤亘さん（エフエム東京取締役相談役、東京メトロポリタンテレビジョン代表取締役会長）
- 第3回 植村伴次郎さん（東北新社最高顧問）
- 第4回 藤田潔さん（ビデオプロモーション名誉会長） / TBS 『調査情報』
- 第5回 石井ふく子さん（テレビプロデューサー）
- 第6回 松尾羊一さん（放送評論家）
- 第7回 山本雅弘さん（毎日放送最高顧問）



視聴者参加型のギャラクシー賞

ギャラクシー賞マイベスト^{テレビ}TV賞 グランプリ決定！

マイベストTV賞 第11回グランプリ

TBS テレビ 火曜ドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。「火曜ドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』」には、「登場人物みんなに感情移入でき毎週キュンキュンしていた」「絶妙な創り手のセンスと力量に連ドラの力を見せつけられた」「とにかく配役が絶妙だった」という視聴者の賞賛の声が数多く寄せられました。契約結婚という形に翻弄される男女の姿を通して、新しい結婚の形、現代的な恋愛をコミカルに描いたドラマで、新垣結衣、星野源、石田ゆり子ら俳優陣の演技も素晴らしく、視聴者に大きな感動を与えました。

解説

マイベストTV賞に参加したオンライン会員 Gメンバーは、2017年4月10日現在で298名。これに放送批評懇談会の正会員198名が加わった計496名がグランプリ作品の投票にあたった。

グランプリは、2016年4月度から2017年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作36本の中から、最大5本までを投票するという方法で決められた。

190票を獲得しグランプリに選ばれたのは、TBSテレビの「火曜ドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』」。“ドラマの作風が今までになくとても面白かった” “恋愛系は苦手だが、それでも見続けてしまい、終わったあとはしばらく『逃げ恥』ロスになった” “最後のダンスに夢中になった” といったコメントが寄せられるなど、投票者の幅広い支持を得る結果となった。

第2位はTBSテレビの「火曜ドラマ『カルテット』」。“サスペンスなのにどこかコミカルでとても楽しめた” “脚本、演出、役者のすべてがバランスよく整ったドラマ” など、熱心なドラマファンの支持を集めた。

第3位はTBSテレビの「火曜ドラマ『重版出来！』」。“出版業界の裏側がコミカルに描かれ面白かった” “新人編集者を黒木華さんが好演していた” など、上質な娯楽性が評価された。

今期のマイベストTV賞グランプリは、1位から3位までをTBSテレビの火曜ドラマが独占し、その強さが光った。

なお、次年度も同様の方式によって年間のグランプリを決定するが、深夜番組などレギュラーの番組を「特別投票」でノミネート作に盛り込むなど、新しい試みを実施する予定である。



最終投票結果

第 1 位	火曜ドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」(TBS テレビ)	190 票
第 2 位	火曜ドラマ「カルテット」(TBS テレビ)	185 票
第 3 位	火曜ドラマ「重版出来！」(TBS テレビ)	117 票
第 4 位	土曜ドラマ「トットてれび」(NHK)	98 票
第 5 位	世界一難しい恋 (日本テレビ)	91 票
第 6 位	土曜ドラマ「夏目漱石の妻」(NHK)	80 票
第 7 位	SMAP×SMAP (フジテレビ)	75 票
第 8 位	ゆとりですがなにか (日本テレビ)	73 票
第 9 位	NHK スペシャル「ある文民警察官の死～カンボジア PKO 23 年目の告白～」(NHK)	67 票
第 10 位	地味にスゴイ! 校閲ガール・河野悦子 (日本テレビ)	63 票

参考

★どんな賞?

「ギャラクシー賞マイベストTV賞」は、放送批評懇談会がNPO（特定非営利活動法人）になったことを節目として創設されました。

視聴者はどんな番組を評価し、どんな番組を愛好しているのでしょうか。放送局や放送の作り手には、視聴者の声は届きにくいのが現実です。とくに、「よかった」「素晴らしかった」といった推奨の声はなかなか形になって表れません。視聴者の評価の声を形にしたい、視聴者の気持ちを放送局や制作者に届けたい——そんな思いから生まれたのが、「ギャラクシー賞マイベストTV賞」です。

★賞の本数、対象年度、賞の仕組み

ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ 1本

年度（4月～翌年3月）ごとの日本国内で放送されたテレビ番組が対象

審査員は放送批評懇談会正会員とオンライン会員Gメンバー。選出は放送批評懇談会の会員サイトの投票で行う。毎月の候補番組は放送批評懇談会で制定。会員は毎月1回、候補番組の中から3本まで選んで投票。得票の多かった3本が月間ノミネート番組に選出される（投票の経過・結果はWebで発表）。1年間に選出された月間ノミネート番組から、年間のベスト番組5本を選んで投票。もっとも多くの支持を獲得した番組1本が、<ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ>に選出される。

★オンライン会員Gメンバーとは?

「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下「Gメンバー」）は、放送批評懇談会の活動に参加する「準会員制度」として、2016年5月にスタートした。会費は年額3000円（半年の場合は2000円）。Gメンバーは「ギャラクシー賞マイベストTV賞」選出に参加し、番組への意見や感想を、テレビ・ラジオの制作者に発信する。

月刊誌「GALAC」電子版を購読できるほか、放送批評懇談会が主催するセミナーなどに特別料金で参加できる特典なども用意されている。



第 54 回ギャラクシー賞 テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門 2016 年度の傾向と選考経過

■ テレビ部門 ■

委員長 出田幸彦

副委員長 岩根彰子

委員 岩城浩幸 太田省一 岡室美奈子 小泉世津子 鈴木誠一郎 西森路代

旗本浩二 福島俊彦 藤岡美玲 藤田真文

2016 年度のギャラクシー賞テレビ部門には、全国の放送局や制作会社から昨年度に引き続き 300 本を超える多数の見ごたえのある作品が寄せられました。上期 141 本、下期 170 本の計 311 本（地上波 215、BS・CS38、制作会社 50、ケーブルテレビ 8）の応募作品と月間賞受賞作品（48 本）について慎重な審査と熱い議論を重ねた結果、以下の 14 作品の入賞が決定しました。（『入賞作品一覧参照』）

ドキュメンタリーでは、人間の生きざまをしっかりと見つめた地方局制作の力作が 4 本入賞しました。「黒声の記憶」（鹿児島テレビ放送）と「Born Again～正子・R・サマーズの人生」（琉球放送）は個性ある人間の数奇な運命を通して奄美や沖縄の戦中・戦後史を浮かび上がらせました。また差別社会や戦争被害と闘う人たちの日常をじっくりと追いかけたのは、「大ちゃんと為さん～あるまちの風景～」（三重テレビ放送）、「きずあと 101 歳 戦争と平和のレクイエム」（東海テレビ放送）です。

また、独自の調査で丹念に事実を積み重ねて国民の知る権利に応える「調査報道番組」が 3 本入賞しました。「追いつめられた“真実”～息子の焼身自殺と両親の 9 年～」（毎日放送）、NHK スペシャル「ある文民警察官の死～カンボジア PK023 年目の告白～」（NHK）、NHK スペシャル 廃炉への道 2016「調査報告 膨らむコスト」（NHK）です。このほか終戦秘話を映像化したザ・スクープスペシャル「緑十字機 決死の飛行～誰も知らない“空白の 7 日間”～」（テレビ朝日、静岡朝日テレビ）とヒューマンな実録ドキュメント「ブレイブ 勇敢なる者『えん罪弁護士』」（NHK、NHK エデュケーショナル）も異色の作品として入賞しました。

ドラマでは、実力派の脚本家による魅力的なストーリーと多彩な俳優陣の演技力、巧みな演出が見事に融合した作品が多く、委員の中でも激論が交わされました。社会派のヒューマンドラマ「奇跡の人」（NHK、日テレアックスオン）と「ゆとりですがなにか」（日本テレビ、日テレアックスオン）、コミックをドラマ化した社会派ラブコメディ「逃げるは恥だが役に立つ」（TBS テレビ）、ラブサスペンスの「カルテット」（TBS テレビ）の 4 本が入賞しました。

バラエティで唯一入賞したのは、単なる旅モノではなく人生の意味も深く考えさせるクレイジージャーニー「リヤカーマン」（TBS テレビ）です。（出田幸彦）



テレビ部門特別賞

「世界の果てまでイッテQ！」 日本テレビ放送網

2007年に放送を開始した「謎とき冒険バラエティー 世界の果てまでイッテQ!」は、10周年にしてますます多くの視聴者に愛される番組に進化しています。

「珍獣ハンター・イモト ワールドツアー」をはじめ期待を裏切らない面白さの企画を多数擁する安定感と、何か見たことのないものを見られそうなワクワク感。10周年記念特番はその集大成ともいえる内容で、人気にあぐらをかくことなく、より視聴者に親しまれる番組づくりを続ける姿勢を垣間見ることができました。イモトアヤコや出川哲朗ら、この番組で注目されたタレントも多く、日曜ゴールデン帯における日本テレビの勢いを象徴する番組でもあります。

テレビ部門個人賞

満島ひかり

土曜ドラマ「トットてれび」(NHK)「シリーズ・江戸川乱歩短編集Ⅱ 妖しい愛の物語」(NHK)、火曜ドラマ「カルテット」(TBSテレビ)の演技

「トットてれび」では、黒柳徹子という実在の著名人を演じるという難しい役どころに挑み、特徴をよく捉えながらも単なる物真似ではなく、奥行きのある一人の人物として豊かに演じ切りました。「シリーズ・江戸川乱歩短編集Ⅱ 妖しい愛の物語」では、明智小五郎という男性の役を巧みに演じるなど耽美的な雰囲気醸し出しました。また、「カルテット」では、秘密を抱えたチェロ奏者の役を繊細に演じ、坂元裕二による練りに練られた台詞の細やかなニュアンスを的確に表現するなど、多数のドラマで際立った演技を披露し、まさに大活躍の1年でした。

決して守りに入ることなく次々と難役に挑戦するかるやかなフットワークと、それぞれの登場人物に独特の存在感と生命を吹き込む卓越した演技力は、広範な年齢層の視聴者を惹きつけてやまず、テレビドラマ界の活性化に大きく貢献しました。これを高く評価するとともに、今後のますますの活躍を期待して、本賞を贈ります。

<満島ひかり プロフィール> みつしま・ひかり 1985年11月30日鹿児島生まれ、沖縄育ち。97年音楽ユニット「Folder」のメンバーとしてデビュー。09年園子温監督「愛のむきだし」、金子修介監督「プライド」、吉田大八監督「クヒオ大佐」の3作品で鮮烈に映画界に現れ、10年公開の安藤モモ子監督「カケラ」、石井裕也監督「川の底からこんにちは」で主演。その後も「悪人」(10年、李相日監督)、「一命」(11年、三池崇史監督)、「北のカナリアたち」(12年、阪本順治監督)、「夏の終り」(13年、熊切和嘉監督)、「駆込み女と駆出し男」(15年、原田真人監督)、「愚行録」(17年、石川慶監督)などの映画に出演し、高い演技力が評価されている。テレビでは「それでも生きてゆく」(11年、フジテレビ)で初ヒロイン、「開拓者たち」(12年、NHK BS)で初主演。「Woman」(13年、日本テレビ)ではシングルマザーを演じ、広く共感を得た。16年度は「トットてれび」(NHK総合)、「シリーズ・江戸川乱歩短編集」(NHK BS)、「カルテット」(TBSテレビ)に出演。これまで、国内外で数多くの賞を受賞している。17年公開待機作に、「メアリと魔女の花」(米林宏昌監督・声の出演)、「海辺の生と死」(越川道夫監督)がある。



ギャラクシー賞テレビ部門 フロンティア賞

テレビ部門では2015年度から新たに「フロンティア賞」を創設しました。ネットやスマホなどの普及によって、メディアをめぐる環境は大きく変化しました。過去の成功体験にしがみついているだけでは、テレビの未来はありません。失敗を恐れず、前例のない挑戦をする精神が、いまこそテレビに求められています。「フロンティア賞」は、文字通り、テレビの新境地を開拓し、その未来や可能性を広げる意欲的な取り組みを応援していきます。個々の番組にとどまらず、新たな仕組みづくり、継続的な活動なども幅広く対象として、テレビ部門委員会が選考します。

テレビ部門フロンティア賞

「火花」 YDクリエイション

放送と通信の融合時代にふさわしい高品質なコンテンツの制作とメディア展開に対して

株式会社YDクリエイションがネット配信向けに制作したドラマ「火花」は、2016年6月からNetflixで世界190の国と地域に同時配信され、高品質なコンテンツとして注目を集めました。さらに2017年2月からは地上波（NHK総合テレビ）でも放送され、ネット配信と放送メディアとの融合が大きな話題になりました。制作スタッフには映画界の才能を起用し、高品質な映像表現や演出を駆使するとともに、全10話という連続テレビ的な本数を制作することで、これまでの映画やテレビにはない新しいコンテンツをユーザー（視聴者）に提供しました。放送と通信の融合時代を迎え、高品質なコンテンツの新しい可能性を広げるフロンティアとなりました。



■ラジオ部門■

委員長 橋本 隆

副委員長 五井千鶴子

委員 伊藤友治 鶴飼一嘉 大谷知史 北郷裕美 黄 莉香 小林浩子 仲宇佐ゆり
永須智之 中村亮平 三原 治

上期 35 本、下期 37 本、計 72 本の応募。多数の応募に感謝しております。

今年も聴き応えのある優れた番組が集まりました。昨年東京地区ではセットインユースが 6%を割り、ラジオの危機が続いています。再興の道筋が見えない、そんな時にどのような番組を評価・選奨することが大切なのかという思いで選考しました。

<入賞番組> (放送日順)

- ◆「KBC 長浜横町 居酒屋清子」(九州朝日放送)。架空の居酒屋清子の女将役きょんちゃんと客であるリスナーとの軽妙なトークバラエティ。同様の設定はこれまでもあったが今回は意図通りの成功番組となった。きょんちゃんの魅力で、本音を引き出した上質なバラエティ番組。
- ◆「あの日、母は少女だった～被爆の記憶をたどる母と息子の対話～」(NHK 広島)。被爆した母とその経験談を聞く息子、その独白証言を朗読で合成した手法、見事な出来上がり。静かに語る戦争の悲しさが心を打つ。
- ◆「ライムスター宇多丸のウィークエンド・シャッフル」(TBS ラジオ)。ライムスター宇多丸の相変わらずの小気味良いテンポでのトーク番組。今回は後半に戦時中の「大本営発表」というデタラメ放送の事実をこの番組の主たるリスナーである若い人たちに届けた。
- ◆「峠の先の小学校」(CBC ラジオ) そっと忍び寄ってくる危機、当事者しか分からない危機、人口減少による限界集落、地元にあるそういった集落の小学校の生徒の一人を優しく温かく紹介しながら問題を提起した。
- ◆「語り部をやめたい～94歳の夏」(毎日放送)。戦争の悲惨さ愚かさ虚しさを語り続ける人がいて辛うじて戦争の記憶が受け継がれている。今、その活動を止めたいと考えている老人にスポットを当てた。それは何故なのか、我々の置かれている現状が見える秀作。
- ◆「言の葉の海に漕ぎ出して」(エフエム東京)。ロバート・キャンベルが井上陽水の曲の歌詞を英訳するという作業を通じて日本語の本質を探る。二人の間にある尊敬と信頼感がトークを深いものとした。
- ◆「荻上チキ・Session-22」(TBS ラジオ)。昨今の芸能人薬物問題に関するマスコミ報道に、批判や疑問の声が寄せられた。荻上チキは【薬物報道ガイドラインを作ろう】とその叩き台を提示し公開で議論を進めた。ラジオに何が出来るかに挑戦した番組。
- ◆「5拍子の福音」(毎日放送)。吃音に悩む女性が音楽に出会い、困難な人生に立ち向かって生きる姿を描いたラジオならではの作品。MBS ラジオドラマ脚本コンクールの第1回最優秀作のドラマ化。

(橋本 隆)



ラジオ部門DJパーソナリティ賞

星野 源

「星野 源のオールナイトニッポン」(ニッポン放送) パーソナリティとして

俳優、文筆、音楽など、ジャンルにとらわれない多彩な活動が注目されていますが、その背景には、若いころにラジオを愛聴していた影響があります。パーソナリティを務める「オールナイトニッポン」でも、ラジオへの愛情がたびたび語られています。そして何より、他メディアで星野源の魅力に惹かれた人々を、ラジオの世界に引き込んで、リスナーとすることに成功しました。リスナーたちは、ほかでは決して聴けない「星野源」に触れて、新鮮な驚きを感じることができるはずです。

かつて深夜のラジオ番組が持っていた“パーソナリティ”に接する喜び、距離感の近さの喜びを、新しいリスナー、新しい世代に引き渡す役割を担ってくれています。パーソナリティ以外にも、番組のジングル作成、対談番組への出演など、ラジオへの率先した取り組みが話題となりました。これらの活動すべてが、ラジオの将来を背負う人物にふさわしいものとして評価されました。

<星野源 プロフィール>

ほしの・げん 1981年、埼玉県生まれ。音楽家・俳優・文筆家。2010年アルバム『ばかのうた』でソロデビュー。2015年5月にリリースしたシングル『SUN』、12月にリリースしたアルバム『YELLOW DANCER』が大ヒットを記録。2016年には自身も出演したドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」の主題歌『恋』が社会現象になるほどの大ヒットを記録した。今年5月からは、過去最大の動員数を誇る全国アリーナツアー“星野源 LIVE TOUR 2017『Continues』”の開催も決定。全国9箇所18公演を回る。

俳優として、2013年に映画『箱入り息子の恋』、『地獄でなぜ悪い』等に出演。第37回日本アカデミー賞新人俳優賞等の映画賞を多数受賞。ドラマ「コウノドリ」、「逃げるは恥だが役に立つ」、大河ドラマ「真田丸」など多数のドラマや映画に出演。

作家として著書『蘇える変態』、『働く男』、『そして生活はつづく』、『星野源雑談集1』を刊行。今年3月に発売したエッセイ集『いのちの車窓から』は発売前から大きな話題となり、大ヒットを記録中。多岐にわたる活躍が評価され、第9回伊丹十三賞を受賞。現在、ニッポン放送「星野源のオールナイトニッポン」火曜パーソナリティを担当。



■ CM 部門 ■

委員長 稗田政憲

副委員長 松山珠美

委員 国枝智樹 汲田亜紀子 鈴木武人 鈴木ゆかり 野上信子 服部千恵子 星野 裕
本庄雅之 横川紀子 若尾一彦

第 54 回ギャラクシー賞 CM 部門には、上期 97 本、下期 88 本、計 185 本（シリーズも 1 本としてカウント）の応募が寄せられました。残念ながら前回の応募数から 55 本減となりました。シリーズ、単独、ローカル、局制作のあらゆるカテゴリーで前年を下回り、これまで多くの応募をいただいた会社で作品を絞る傾向がありました。投票と討議を重ねた結果、次の 13 本を入賞作品と決定しました。

◆アマゾンジャパンの Amazon プライム「ライオン篇」は犬と赤ちゃんで好感度を高め、セリフとナレーションを使わず、美しい BGM で印象的な作品でした。◆大塚製菓のカロリーメイト「Mate 篇」は高校野球の先輩後輩のカコとイマを嫌みのない仕掛けで表現した感動的作品でした。◆大塚製菓ポカリスエットのシリーズ CM は青春のエネルギーを楽曲、振付、ダンス、コピー、映像すべての要素の絶妙な調和が活きた作品でした。◆昨年大賞を取った KDDI au 三太郎シリーズは、今回「秋のトビラ・三太郎の出会い篇」単独での応募でした。友情の始まりを小気味よく仕上げ、キャンペーンを長く続けるチェンジ・オブ・ペースとしてのアイデアが光りました。◆湖池屋の PRIDE POTATO は女子高生が 100% 国産ジャガイモ使用を歌うだけの CM でしたが、歌のうまさ最後のサウンドロゴ（イケイケ GOGO）の落差で商品特性を表現したことが評価されました。◆サントリーホールディングス BOSS シリーズ「昭和篇」「プレミアム熊本篇」はおなじみシリーズの強みを活かし、タイムリーな話題を共感高く取り入れて評価されました。◆静岡新聞・静岡放送「超ドS 静岡兄弟篇」は新聞・テレビ業界の嘆きを自虐的に超軟派に仕上げた笑える逸品。アンチエイジングを取り込んだセンスが光りました。◆大日本除虫菊のタンスにゴンゴン「知りと一なかった」は気持ちよく、リズムカルに商品特性をしっかりと伝えた作品でした。◆テレビ埼玉の私 CM「中島千裕篇」「長島剛士篇」は放送局が個人の CM を作るというサービスを面白く表現した作品でした。◆東海テレビ放送の「堀川、ヤバくない？」は、「汚い堀川」への無関心に焦点を定め、巧みな視線と身近なことばで問いかけた社会派作品でした。◆日本コカ・コーラの「おつかれ、俺たち篇」は、自己肯定の上で他人の仕事を見る男たちの普遍的心情を軸に、2 つのターゲットへの同時伝達の妙が評価されました。◆別府市「別府温泉の男達 CM シリーズ」は、素人の人達の必至の演技と別府の自然と温泉の質的表現など観光資源にきちんと光を当てた工夫が秀逸でした。◆UQ コミュニケーションズのシリーズ 5 本は動画を全面に使わないポスター的表現の新しいアプローチと音楽効果で製品訴求に優れた作品でした。

以上、各社が応募を厳選したことで良作・粒ぞろいで、審査は引き締まりました。その中でも、心がなごむ CM や音楽を活かした CM が光を放っていました。

（稗田政憲）



■報道活動部門■

委員長 丹羽美之

副委員長 市村 元

委員 石井裕一郎 大澤恒夫 河野尚行 田中早苗 谷岡理香 藤久ミネ 古川柳子
宮前周司 矢後政典

ギャラクシー賞報道活動部門は、持続的な調査報道、キャンペーン報道、多メディアと連動した新しい展開など、「番組」の枠組みでは捉えきれない一連の「報道活動」を丸ごと評価することを目的としています。放送批評懇談会の創立 40 周年に当たる 2002 年に創設され、今年で 15 回目を迎えました。

本年度の同部門には、上期 11 本、下期 19 本、計 30 本の応募がありました。NHK と民放のキー局・系列局のほか、独立局、ケーブルテレビ、ラジオ、プロダクションなど、全国各地から多種多様な取り組みが寄せられました。

戦争関連の企画やシリーズ、東日本大震災や熊本地震など災害関連の特集、公権力の不正を追及する調査報道、高齢化や人口減少に関するキャンペーンなど、どれも甲乙つけがたく、議論は長時間に及びましたが、最終的に上期 3 本、下期 7 本に絞られた入賞候補作の中から、6 本の入賞作を選出しました。

アジアプレス・インターナショナル「『イスラム国』(IS)の実態とヤズディ教徒を中心とした住民迫害についての長年の取材報道」。ビデオ・ジャーナリストの玉本英子は中東の紛争を 20 年間にわたり一人で取材し続けました。戦火に苦しむ女性や子供の視点に立つ一貫した姿勢が高く評価されました。

チューリップテレビ「富山市議会の政務活動費不正をめぐる調査報道」。情報公開制度を使って膨大な資料を調べ、富山市議会で政活費不正が蔓延する実態を暴きました。公権力の監視手段である情報公開制度をフル活用し、地道に事実の確認を重ねていくその手法は、調査報道のお手本と言えます。

長崎ケーブルメディア「ながさき原爆記録全集～戦略爆撃調査団編～」。地元の大学、専門家、視聴者らの協力を得ながら、映像に記録された人物、場所、出来事を一つ一つ特定していく手法が斬新です。戦争の記憶を市民と協働で編み上げていくケーブルテレビらしい取り組みに、賞賛の声が相次ぎました。

日本放送協会「ハートネット TV・熊本地震に関する一連の報道活動」。「誰も取り残さない」を合言葉に、発災直後から障害者や要支援者向けの報道を生放送やウェブで多角的、継続的に展開しました。東日本大震災では障害者の死亡率が 2 倍に上りました。その教訓を生かした画期的な災害報道でした。

東日本放送「スーパー J チャンネルみやぎ『5 年前のきょう』『5 年前の今』」。3 月 11 日から 1 か月間、5 年前の「きょう」の様子を同時進行で振り返ります。淡々と時系列で追うことで蘇る記憶があります。時間メディアとしてのテレビの特性を最大限に生かしたユニークな企画として、高く評価されました。

山元臨時災害放送局りんごラジオ「被災町民の声を伝え続けた臨時災害放送局 6 年間の自主制作」。放送局長の高橋厚が掲げた「いい町には“声”がある」の言葉通り、少人数のスタッフで全ての番組を自主制作し、町民一人一人の声を伝え続けました。小さなラジオ局の大きな挑戦に賞賛が集まりました。

(丹羽美之)



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963 年、放送草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は 1 年単位。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。ギャラクシー賞は第 50 回（2013 年）を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門や CM 部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎゅらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年 2 回（上期・下期）、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年 6 月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。



◆賞の内容◆

【テレビ部門】大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1、フロンティア賞1

【ラジオ部門】大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1

【CM部門】大賞1、優秀賞3、選奨9

【報道活動部門】大賞1、優秀賞2、選奨3

【その他】志賀信夫賞1、マイベストTV賞グランプリ1

上記のほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

1963年度（表彰は1964年）ギャラクシー賞誕生、第1回。

第27回、ラジオ部門独立。

第31回、ラジオ部門にDJパーソナリティ賞新設。

第33回、CM部門設立。

第40回、報道活動部門設立。

第44回、視聴者が選考に参加する「マイベストTV賞」を新設。

第47回、「志賀信夫賞」を新設。

第53回、テレビ部門がテレビの新しいチャレンジを応援する「フロンティア賞」を新設。

